

CODE 海外災害援助市民センター  
2007 年度事業報告  
2007.4.1 ~ 2008.3.31

2008.6.15 総会資料

事業報告一覧

事業	事業名	実施日時	実施場所	受益対象者の範囲 及び予定人数	支出額 (千円)
海外災害地への救 援活動事業	救援プロジェクト	随 時	アフガニスタン	対象地域住民	787
		随 時	アルジェリア	対象地域児童	0
		随 時	イラン・バム	対象地域住民	27
		随 時	スリランカ	対象地域住民	2,686
		随 時	パキスタン	対象地域住民	1,468
		随 時	インドネシア・ジャワ	対象地域住民	935
		随 時	ペルー	対象地域住民	17
人材育成事業	NGO ことはじめ	実施せず			0
	HAT 国際機関訪問	実施せず			0
	スキルアップ研修	実施せず			0
	ボランティアの日	実施せず			0
災害関連情報の収 集及び発信事業	災害情報サイト(CODE World Voice)の運営	随 時	全 国	不特定多数 翻訳ボランティア 20 名	0
国内外のネットワー ク構築事業	関係機関の開催するセ ミナー、シンポジウムへ 出席	随 時	全 国		45
	神戸学院大学「防災・ 社会貢献ユニット」	2007 年 4 月～7 月	神戸学院大学ポー トアイランドキャンパ ス	学生 30 人	0
	留学生セミナー	5 日間 (2008 年 3 月)	神戸市内	留学生 7 人	131
	コープこうべ自然災害 救援基金で報告	2007 年 6 月 29 日	神戸市内	基金運営委員 20 名	0
	「ほっとけない世界のま ずしさ」キャンペーン	随 時	全 国		2
「市民による災害救 援」に関する調査・ 研究事業	協同組合の勉強会	実施せず			0
	予防防災の取り組み	実施せず			0
	マイクロファイナンス	実施せず			0
「市民による災害救 援」に関する啓発 及び広報活動事業	賛助会員数の増加	随 時	全 国	不特定多数	0
	講師派遣と報告会	随 時	全 国	不特定多数	36
	機関誌とインターネット	機関誌は2回発行、 インターネット随時	CODE 事務所	機関紙 700 部	126
	冊子等の発行・販売	随 時		不特定多数	22
	支援グッズ販売	随 時		不特定多数	0

その他本会の目的 達成の為に必要な 事業	CODE エイド準備	随 時	CODE 事務所		0
	スタッフ奨学金制度	随 時	全 国	スタッフ	0
	法人取得5周年記念シ ンポジウム	2008年2月17日	神戸市内	約80人	426
	草の根協力事業(地域 提案型)	2007年7月	兵庫県内	アフガニスタン7人 講師・スタッフ 約10人	3,783

【海外災害（地）への救援活動事業】

事業名	アフガニスタン救援プロジェクト
実施日時	随時（2002年7月から継続事業）
実施場所	アフガニスタン カブール州ミールバチャコット地域
受益対象者の範囲及び予定人数	ミールバチャコット地区ババカシュガルの4つの村のぶどう家族500所帯とその地域住民（全世帯数1560世帯）
実施内容	<p>「9.11」以来、UNHCRはアフガニスタン難民の受け入れについてイランおよびパキスタンなどに積極的に働きかけ、一定の成果を治めてきた。その後正式にカルザイ大統領となり、新生アフガニスタン国の始動と併せ、難民の帰還事業も進んできた。しかし首都カブールはじめ帰還難民が増えてきたことから、失業者が溢れ、一方で麻薬の原料であるケシ栽培世界一という不名誉なこととなり、毎年の治安悪化と合わせて、残念ながら大変厳しい状況が続いてきた。</p> <p>2003年からスタートしたぶどう畑再生プロジェクトは5年が経過した。本プロジェクトのフィールドであるシャモリプレーンのミールバチャコット地区は、これまで比較的治安も安定していたが、2007年前半に先述のフィールドからわずか30kmほどしか離れていない米軍バグラム基地において大規模な衝突があったことから、本プロジェクトへの影響も懸念されている。今のところは、具体的な影響は出ておらず、人々は農業を主として日々の暮らしに勤しんでいる。しかし決して安心と安全が保障されている訳ではなく、余談を許さない情勢でもある。5年目の成果として上げられることは、後述するJICA地域提案型事業によるアフガニスタン農業研修の第一年次での学びを受けての現地でのワークショップがどこまで展開できたのかに尽きる。研修を終え帰国して間もなく、現地からメールが入り「研修内容をもって、村でワークショップを展開している」との報告があった。来年度に実施される第2年次研修が期待される場所である。</p> <p>これまでの報告により、1年目のぶどう基金の貸し付け家族は288世帯。2年目に112世帯が借りた基金の一部を返金し、そのお金で新たに112世帯に貸し付けた。3年目は12世帯が返金し、新たに12世帯に貸し付けたので、3年間で合計412世帯のぶどう家族がぶどう基金をもとにぶどう畑を再生していることになる。</p> <p>3年目から5年目までは対象農家を増やすという施策より、内部の「コーポラティブシューラ」（ぶどう農家事業協同組合）組合員の足腰強化にエネルギーを注いできた。先述したJICA研修には、農業省の事業部長も参加されたので、その意味ではここミールバチャコット地区での実践がアフガニスタンの他の地域にも“グッドプラクティス”として伝わることを期待される場所となった。</p>

事業名	アルジェリア地震救援プロジェクト
実施日時	随時（2003年5月からの継続事業）
実施場所	アルジェリア
受益対象者の範囲及び予定人数	対象地域住民
実施内容	前年度事業計画でも触れたが、神戸市教育委員会が現地に協力した防災教育普及のためのプレゼン資料として、CODE から、阪神・淡路大震災時にアルジェリアから支援を受けた“アルジェリアテント”のことや、またそのことに対するCODEが中心となって展開したお返し取り組みなどの写真資料等を提供した。こうした具体的な連携を重ねながら、適切な支援が可能なパートナーを継続して探してきた。2007年度中には決定できず2008年度への持ち越しとなるが継続する。

事業名	イラン南東部地震救援プロジェクト
実施日時	随時（2003年12月から継続事業）
実施場所	イラン・ケルマン州バム
受益対象者の範囲及び予定人数	・対象地域に住んでいる約100人の子どもと同地域に住む女性など若干名
実施内容	地震発生からサポートしてきたテヘランのNGO関係者らはほぼ撤退し、事実上地元の女性たちの運営管理で活動を継続してきた。CODEが支援したコミュニティセンター（AHKKセンター）は、部分火災にあったが全体としては維持可能になり、これまで通り同センターを活用して子どもの歌や人形劇の訓練場であったり、女性たちが集い悩みを打ち明けたり、情報交換の場として使われてきた。 また、前年度現地からの提案があり当理事会でも協議した阪神・淡路大震災のメモリアルソングとして定着した「しあわせ運べるように」のペルシャ語バージョンCD作成については、その後具体的な申請がないので保留になっている。被災地バムに入っているSNS（本部神奈川）というNGOからの情報によると、先述のコミュニティセンターは地元の被災女性を中心に順調に運営されているとのこと。

事業名	スマトラ沖地震津波災害救援プロジェクト
実施日時	随時（2004年12月から継続事業）
実施場所	スリランカ
受益対象者の範囲及び予定人数	スリランカ：防災教育支援：タララ村の子ども約50人 幼稚園・保育園再建支援：約240名（予定） （6つの地域で幼稚園を建設） 漁業組合支援：約300名（2つの地域で実施） 絵本が完成すれば、その読者すべて。
実施内容	2004年の“TSUNAMI”で多大な被害を受けたスリランカでは防災教育支援、幼稚園・保育園再建支援、漁業組合支援などをそれぞれの地域でカウンターパートと連携して行ってきた。 また災害発生直後に訪問し、防災教育ツールの一つとしてスリランカ YMCA 同盟に託してきた津波防災啓発絵本づくりは、一定の成果となり2008年2月に完成した。これで当初から同 YMCA をご支援してきた事業はすべて終了となる。 また、前年度「公益信託今井記念海外協力基金」からの助成を受けて展開してきた防災教育は成功裏に終わった。 *実施内容：幼稚園11ヶ所、園児 計367人 （1ヶ所3、4日のプログラム）防災マップ作り、災害情報ボード塗り絵、エマージェンシーバック塗り絵、稲むらの火・象の物語読み聞かせとお絵かき、おはしもの歌など また、2008年2月20～25日、神戸学生青年センターにてスリランカの子どもたちの絵の絵画展を開いた。 これらの事業を担い、また見届けるために国連ボランティアの仕事が終わった後も1年間スリランカに滞在して活動をしてきた濱田久紀はこれを持ってCODEのスタッフとしての契約は解除となる。

事業名	パキスタン北東部地震救援プロジェクト
実施日時	随時（2005年10月8日から継続事業）
実施場所	パキスタン・イスラム共和国アザド・ジャム・カシミール州（AJK）ムザファラバード市街地ワード13地区
受益対象者の範囲及び予定人数	上記に住む住民で、主に生活向上プログラムに関わる女性たち。
実施内容	同国の政情不安から、職業訓練センター及びCBO委員会事務所の設置という本プロジェクトが順調に進むかどうかが大変心配される所であった。これまでも間に入って調整して頂いたフォージアさんの協力によって、一応建設の目途がたったとのことである。予定より1年遅れであるが、政権交代などの政治体制の激変があったなかにおいては、ほっとするところでもある。 *フォージアさん 現地ワード13のCOB委員会に出入りしているコンサル会社(株)パセット(本社東京)の元研究員

事業名	ジャワ島中部地震救援プロジェクト
実施日時	随時（2006年5月27日から継続事業）
実施場所	インドネシア ジャワ島中部 バントゥール県バングンタバン市ウィロケルテン村ポトクンチェン集落
受益対象者の範囲及び予定人数	被災地域であるポトクンチェン村の住民108人。（25世帯）
実施内容	<p>ジャワ地震後の住宅再建支援は前年度の2006年10月の引き渡式での調印でもって完全に終了。その後住民主体の地域経済の再建を検討しようとした矢先に住民のリーダーであるソギマンさんが死去したことに伴い、新たなリーダーが生まれたがまだまだ住民の信頼を得ていないとのことで同村での支援事業はすべて終了した。</p> <p>尚2007年後半、ジャワ地震の他の被災地から提案があり、2008年2月度理事会で審議、決定した「ウォータープロジェクト」(*)については、必要な支援金は現地に送金し、いよいよ本格的に同プロジェクトを着手することになっている。（4月着工か？）</p> <p>同プロジェクトのカウンターパートナーは、先述の住宅再建プロジェクトを指導されたエコ・プロワットさん（建築家、デュタ・ワカナ・キリスト教大学講師）なので、基本的には彼の考え方を共有しており、彼も「CODE5周年事業」に参加されたのでCODEの基本的なコンセプトおよび運動理念はじめ思想的な背景には賛同を得たものと思われる。今後は、このウォータープロジェクトが主となり、ジャワ地震後の支援の継続となる。</p> <p>*「ウォータープロジェクト」</p> <p>2006年5月に発生した同国ジャワ島中部ジャワ地震に関する支援活動の延長上に生まれた新たな支援プロジェクトで、対象は中部ジャワ Yogyakarta 省 Gunung Kidul 地区 Giri Sakar 村。乾期における水の確保のための緊要の対策として、2008年3月末よりパイプラインの敷設支援を始める。一方で、現地では持続的な水環境を確保する自然体系の構築にチャレンジするために「パーマカルチャー」（パーマネント+アグリカルチャー）の勉強会を始める予定。</p>

事業名	ペルー地震救援
実施日時	2007年8月20日～2008年3月31日
実施場所	日本でFMわいわいの募金活動を支援
受益対象者の範囲及び予定人数	
実施内容	<p>8月15日M7.9の地震が発生。緊急時対応のガイドラインに基づき、すみやかにメールで理事会に諮り、救援活動をはじめると承認され、募金活動をよびかけるとともに情報収集をし、活動をはじめ。</p> <p>CODEの本メールを受ける前に、吉富理事が所属するNGO（FMわいわい）に、在日ペルー人がおられ、母国との連絡をとりつつ緊急情報を収集されていたことから、吉富理事等が同NGOなどを通して救援活動を立ち上げ、すぐさま活動をはじめたので、CODEに集まる募金は、吉富理事に託すことを決定。</p> <p>同NGOは、現地との交信をしつつ、現地の信頼できるパートナーを通して支援先を探し、ICA文化事業協会に委託することになった。具体的には被災地の100ヶ所程度の炊き出し所のシードマネーに使われる。CODEとしては、同NGOの募金活動を紹介したが、2007年度にCODEに集まった募金（17,000円）はずでにFMわいわいに送金し、ペルー地震救援活動を終えることになった。</p>

事業名	バングラデシュサイクロン“シドル”救援
実施日時	随時（2007年11月20日から）
実施場所	水害被災地
受益対象者の範囲及び予定人数	
実施内容	<p>11月15日発生したバングラデシュサイクロン“シドル”発生。死者3,000人などの報を受ける。緊急時対応ガイドラインに基づき、すみやかにメールで理事会に諮り、救援活動をはじめることが承認される。CODEが連携するTELLNet（本部神戸）やこれまでも懇意にしているバングラデシュの防災センター所長サイデュール・ラーマンさんに連絡しながら被害情報の収集を始める。サイクロン発生後UNCRD兵庫センターの斉藤容子研究員（元CODEスタッフ）も現地に向かうことが判り、情報収集を依頼する。最終的には、何度も現地に足を運んでいる斉藤さんからの情報を最優先で判断し、支援する方向で考える。新年度最初の理事会には、支援先の提案をし、協議・審議して決定されるだろう。</p> <p>・募金は、3月末で合計1,641,959円</p>

## 【人材育成事業】

事業名	NGO ことはじめ
実施日時	開催せず
実施場所	
受益対象者の範囲及び予定人数	大学生など約 60 人（1 回 15 人程度）
実施内容	前年度同様、学生自身の企画によるセミナーを計画したもののスタッフ不足もあり、今年度は一度も開催できず。また最低限開催しなければならない「NGO 概論」についても関西 NGO 協議会と詰め切らずそのままになった。ひとえに事務局の力不足といえる。

事業名	HAT 神戸内 国際機関訪問ツアー
実施日時	実施せず
実施場所	
受益対象者の範囲及び予定人数	大学生など 10 人
実施内容	この事業は若い人たちに特に人気のあることから、一度体験した CODE のボランティアの通う G 大学でも独自に同じような事業を企画・実施した。実施する前に、共同企画・共同開催を提案したが、スケジュール調整が間に合わず、CODE との共催は不可となった。結局今年度は実施できなかった。

事業名	スタッフのスキルアップ研修（スタッフは専従・非専従を問わない）
実施日時	実施せず
実施場所	
受益対象者の範囲及び予定人数	若干名
実施内容	今年度は該当するスタッフがいないので特に実績はない。ただ、もう 2 年にわたって来ている大学生ボランティアが、コープこうべさんの広報からお声がかかり、編集作業の実践を行い、あるデザインが見事採用された。 今後はこうして間接的に CODE にプラスになるならば、事実上個人のスキルアップであってもどんどん行って欲しいと願う。

事業名	ボランティアの日
実施日時	(ボランティアの日としては)実施せず
実施場所	
受益対象者の範囲及び予定人数	ボランティアに関心のある人 約 20 ~ 30 名
実施内容	事務局の力量不足のため、十分な企画ができなかった。ただ、CODE の非常勤アルバイトスタッフが、仲間呼びかけ、発送作業や CODE レター作成のボランティアをしたので、作業そのものは滞りなく行われた。従って、その非常勤アルバイトスタッフが積極的に「ボランティアの日」を設定し、活動すればまた活性化されることでもある。来年度は、その方向で考えたい。

## 【災害関連情報の収集及び発信事業】

事業名	災害情報サイト（CODE World Voice）の運営
実施日時	随時（2002年からの継続事業） CODE 翻訳ボランティアによる翻訳作業は年間 15 回
実施場所	SOHO 形式の在宅による翻訳と当センターでの事務作業
受益対象者の範囲及び予定人数	不特定多数の災害情報を得ている人たちすべて。 CODE の翻訳ボランティアは約 20 人
実施内容	CODE 発足当初からはじめた World Voice は、7 年目を終えた。前年度にスタートさせた World Voice 専用メーリングリストが有効に機能しているため、その中での翻訳のお願い、訳文のチェック、訳文のフィードバックなどを行ってきた。またメーリングリストでは参加し難いという初心者には、個別対応もして来た。最近の訳文の内容は、災害の初期情報のみならず、被災地の生活・文化を理解し、学ぶためにも大変内容の濃い情報を訳して下さっているケースが多く、関係者に重宝されている。CODE のモットーの一つとして掲げてある「普通の市民が気軽に関わる NGO」への参加のきっかけとして、このプログラムが定着してきた。ただ、やはり英訳という特殊な能力が要請されることも影響し、翻訳ボランティアの中でも翻訳者が固定化してきたところもある。また、毎年行っている松蔭女子高校生有志による翻訳体験ボランティアの中から、積極的に翻訳ボランティアを申し出る学生もいることは頼もしい。

## 「ネットワーク構築事業」

事業名	(関係機関からの受託事業)神戸学院大学「防災・社会貢献ユニット」の前期授業企画および講師派遣
実施日時	4月10日から、毎週火曜日。7月17日まで。(5月1日・8日は休講)
実施場所	神戸学院大学ポートアイランドキャンパス
受益対象者の範囲及び予定人数	学生30人
実施内容	<p>昨年度より始まった神戸学院大学社会貢献ユニットへの講師派遣は、CODEとのコラボレーション事業という位置づけであり、村井理事は同大学の客員教授でもある。</p> <p>この事業により、神戸学院大学よりCODEに関心を寄せている学生もわずかばかりいて、散発的にすでにボランティア活動に参加してくれているので、今後も大切にしていきたい。また同ユニットで開催されている研究会には、スケジュールが重なっていることもあり、ほとんど欠席した。</p> <p>(講師派遣の実績)</p> <p>2007年度前期(毎週火曜日)13回の授業を受け持つ。尚、授業の形態は外部講師を招いてのオムニバス形式にしているため、村井理事が13回すべての授業を行っている訳ではない。</p> <p>*外部講師(敬称略):本野一郎、藤野達也、牧秀一、山地久美子、斉藤容子</p> <p>(研究会)</p> <p>2008年1月29日、2月15日の2回参加</p> <p>(後援したシンポジウム)</p> <p>*5月27日 地域とともに生きる - 災害に強いまちの創生 - 会場:神戸学院大学ポートアイランドキャンパス B号館</p>

事業名	(関係機関からの受託事業)JICA 兵庫および JICE からの委託事業による「留学生セミナー」開催。
実施日時	年 1 回、期間は 3 月 10 日から 14 日の 5 日間
実施場所	神戸市内
受益対象者の範囲及び予定人数	毎年公募による留学生が対象。今年度は 7 名
実施内容	<p>JICA および JICE からの受託事業として実施。JICA が日本国内で学ぶ留学生に呼びかけ、阪神・淡路大震災から学ぶというコースの設定に 7 名が参加。地震についての学習や行政、NPO・NGO の復興の取り組みを学んだ。</p> <p>* 人と防災未来センター見学、兵庫県の取り組みの講義 CODE の取り組み、学生の取り組み（神戸大学学生震災救援隊） 多文化共生の取り組み（神戸外国人定住支援センター） 市民の取り組み（市立飛松中学校、飛松森の会） 障害者市民の取り組み（吉良、七つの海）</p> <p>ただ、JICA 全体としてはこの事業に人気がなく次々年度は事業廃止の方向とのこと。そんな中でも CODE が提案するコースは人気があり次年度も継続することが内定。</p>

事業名	(関係機関からの受託事業)「アフガニスタン・カブール州シャモリ平原における農業開発と地域防災の相互補完促進事業」を開催（佐用町と共催）。
実施日時	7 月 9 日～18 日
実施場所	主に兵庫県佐用町
受益対象者の範囲及び予定人数	アフガニスタンからの研修生 7 人
実施内容	<p>JICA の平成 19 年度草の根技術協力事業（地域提案型）として実施。アフガニスタンから 7 名の研修生を招き、7 月 9 日から 18 日までの研修を、本事業のパートナー自治体でもある兵庫県佐用町で行った。持続可能な農業と防災の関係を学び、また地元上月中学との交流のきっかけづくりにつながり、また佐用町国際交流協会の活性化にも貢献でき、全体を通じて大変実りある事業となった。</p> <p>* 佐用町の概要と地域防災計画、ぶどう栽培政策の説明 佐用町農産加工施設の見学、豆腐作り体験 棚田農家見学、石垣積み体験 ぶどう農家見学と実習 有機農業でのぶどう栽培、持続可能な農業についての講義 ワークショップ「佐用の学びをシャモリに持ち帰る」 神戸被災地見学</p> <p>なお、本事業は 2008 年、2009 年も継続実施をする。</p>

事業名	関係団体への正会員加盟やシンポジウムなどの実行委員会あるいは運営委員会への参加
実施日時	今年度通年
実施場所	
受益対象者の範囲及び予定人数	会員はじめ不特定多数。
実施内容	関西 NGO 協議会に正会員として加盟。 周年事業として開催される UNCRD 主催のシンポジウムに参加。 1月18日 国際防災シンポジウム 2008～持続可能なコミュニティに向けて 芹田代表理事がパネルディスカッションのコーディネータを務める。

事業名	(関係団体の主催する事業との連携) コープこうべ自然災害救援基金での報告会にスタッフ派遣。
実施日時	6月29日
実施場所	コープこうべ生活文化部
受益対象者の範囲及び予定人数	基金運営委委員
実施内容	アルバイトスタッフの岸本くるみが報告

事業名	(関係団体の主催する事業との連携) ゆとり生活館 AMIS(1F)の NPO/NGO 交流コーナーに参加
実施日時	年数回開催
実施場所	同会館 1 階
受益対象者の範囲及び予定人数	同会館利用者
実施内容	コープこうべが管理するゆとり生活館 AMIS(1F)の NPO/NGO 交流コーナーに参加。 ちなみに、他の団体はユニセフ兵庫と PHD 協会および同館の管理運営を受託している(特活)子ども環境活動支援協会(LEAF)である。  (会議等実績) 7月21日 メダカの学校(LEAF 主催)に参加 1月20日 コープファミリーフェスタに参加

\* JAL との連携

災害時に輸送協力などの提供に関する覚書を交わしている JAL の申し出によって、昨年 3 月に発生した能登半島地震及び新潟県中越沖地震後のボランティア活動に対して、伊丹 - 新潟航空券延べ 6 人分の提供と足湯ボランティアのための融雪車によるお湯の提供を受けた。これは、JAL から協力の申し出があったものの、あくまでも CODE を窓口として例外的に国内災害に充当したケースとなる。今後国内災害に関しても、こういうケースが起こりうるだろう。

事業名	「ほっとけない世界のまずしさ」キャンペーンへの参加
実施日時	随時（2005年9月から継続事業）
実施場所	全国各地
受益対象者の範囲及び人数	ホワイトバンド販売数 180 本
実施内容	<p>「ほっとけない世界のまずしさ」ホワイトバンドキャンペーンは、貧困と闘うグローバルなキャンペーンの一翼を担ってきた活動。毎年引き続きキャンペーン事務局や他の賛同団体、地域で貧困の問題に取り組む人々と連携し、ホワイトバンドの販売を促進してきた。</p> <p>（販売実績）</p> <p>23 個（内 3 月 29 日 チャリティ・コンサートで 9 個販売）</p>

事業名	ネットワークづくりに関連する活動
実施日時	随時
実施場所	
受益対象者の範囲及び予定人数	直接裨益するものは双方に関連する人たちと間接的に裨益するものは多数。
実施内容	<p>当 NGO の理念に合致し、理想的な減災社会を築くためにつながるネットワークづくりのために、関係機関との交流は積極的に図ってきた。詳細は下記の通り。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 4 月 12 日 兵庫県及び JICA 兵庫が開催する国際防災研修センター検討委員会に出席</li> <li>・ 4 月 24 日 ひょうご安全の日推進会議に出席</li> <li>・ 5 月 11 日 神戸大学現代 GP 委員会に出席</li> <li>・ 5 月 17 日 国際防災研修センター開所式に出席</li> <li>・ 6 月 12 日 生活協同組合コープこうべ第 87 期通常総会に出席</li> <li>・ 8 月 13 日 JICA 兵庫からの依頼で、JICA 新人研修を行う。</li> <li>・ 9 月 5 日 UNCRD 兵庫開催の「ペルー地震報告会」に参加</li> <li>・ 11 月 10 日 難民事業本部開催のセミナー「ビルマ難民は今」に参加。</li> <li>・ 11 月 17 日 2008 年 1.17 企画について NPO 法人プラスアーツさんと情報交換</li> <li>・ 11 月 26 日 UNCRD 主催の「1.18 シンポジウム」運営委員会</li> <li>・ 12 月 20 日 インドの NGO、SEEDS マヌ代表、アンシュ副代表来所情報交換</li> <li>・ 12 月 21 日 人と防災未来センターのリニューアルに関するヒアリング</li> <li>・ 1 月 13 日 日本災害復興学会発足（室崎副理事長が初代会長就任）</li> <li>・ 1 月 16 日～2 月 18 日、兵庫県海外研究ネットワーク事業によりインドネシアのエコ・プラワットさん来日。当 NGO 事務所での学習も積極的に行う。</li> <li>・ 1 月 18 日 UNCRD 主催シンポジウムに芹田代表理事がコーディネーターとして出席。その他受付ボランティアなどにボランティアを派遣。</li> <li>・ 1 月 27 日 インド洋地震津波災害研究フォーラムに参加</li> <li>・ 2 月 21 日 松蔭高校ワールドボイス研修</li> <li>・ 3 月 14 日 JICA 兵庫の飯田次長来所、来年度の留学生セミナーについてヒアリングを受ける</li> <li>・ 3 月 17 日 人と防災未来センター河田所長、笹川国際防災賞受賞記念シンポジウム出席</li> <li>・ 3 月 29 日 CODE 支援のためのチャリティコンサートが開かれる。</li> <li>・ 3 月 31 日 毎日新聞希望のネットワークよりバン格拉ディッシュへの寄付を受ける。</li> </ul>

その他、兵庫県海外研究ネットワーク事業として、神戸学院大学とインドネシア・ジョグジャカルタにあるデュタ・ワカナ・キリスト教大学との間で研究員派遣が実施された。研究員は、CODE のジャワ島中部地震支援プロジェクトのカウンターパートナー、エコ・プラワットさんだったので、神戸滞在期間中に CODE との交流も実現し、相互に大変勉強になった。特に神戸学院大学も休日となる土・日は、基本的にフリーだったこともあり、CODE との交流を優先して頂き大変学びが多かった。

【「市民による災害救援」に関する調査・研究事業】

事業名	協同組合の勉強会
実施日時	実施せず
実施場所	CODE 事務所
受益対象者の範囲及び予定人数	役員、事務局員、関係者
実施内容	勉強会という形式ではなかったが、生活協同組合連合会国際部からヒアリングがあり、同連合会国際委員会で災害救援について講演した。これをきっかけに被災地での協同組合との連携の可能性を模索することを確認した。事業計画で提案した欧米の事業協同組合から学ぶという機会を持つことはできなかった。次年度は講師として、その分野の専門家を講師として招聘して学習会を始めたい。 (実績) 2008年3月11日 生活協同組合連合会国際委員会での講演。

事業名	予防防災についての学習
実施日時	実施せず
実施場所	CODE 事務所
受益対象者の範囲及び予定人数	学習会参加者
実施内容	前年度に続いて、今年度も一度も開催できなかった。

事業名	マイクロファイナンスについての学習
実施日時	実施せず
実施場所	CODE 事務所
受益対象者の範囲及び予定人数	学習会参加者
実施内容	同種のシンポジウム(NPO メッセ in 関西でグラミン銀行の役員が講演)が関西で続けて開催されたこともあって、CODE 単独での企画・実施を残念した。また両開催日に他のスケジュールとバッティングしたため出席することができなかった。

【「市民による災害救援」に関する啓発及び広報事業】

事業名	賛助会員の拡大
実施日時	随時
実施場所	全国各地
受益対象者の範囲及び予定人数	不特定多数
実施内容	理事の1人から、「会員増員について具体的な数値目標を設定して目標達成を目指すように」という指摘を受けながらも、結果を出せないまま1年が経過してしまっただ。次年度に持ち越すことになるが、より真剣に取り組まなければならないと反省する。

事業名	救援プロジェクト報告会及び講師派遣
実施日時	随時
実施場所	全国各地
受益対象者の範囲及び予定人数	不特定多数
実施内容	<p>CODEの主たる事業である救援プロジェクトについての報告会や講演などの講師派遣を行ってきた。報告会開催によって、市民による災害救援への一層の理解と、新たな支援者の獲得をはかってきた。また、災害救援全般についてやNGOについてなど講師派遣の依頼を受けた場合にスタッフ等を派遣し、普及活動に努めてきた。</p> <p>&lt;実績&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 6月13日 神戸女子大 神戸（村井）</li> <li>・ 7月1日 防災士研修 岸和田（村井）</li> <li>・ 7月5日 地盤工学学会主催の第3回技術者交流特別セッションで講演（村井）</li> <li>・ 7月24日 兵庫県広域防災センターで講演（村井）</li> <li>・ 7月27日 防災士研修 大阪（村井）</li> <li>・ 8月24日 防災士研修 垂水（村井）</li> <li>・ 10月5日 国際学生交流協会での講演（村井）</li> <li>・ 10月29日 国境なき技師団主催のシンポジウムに参加（村井）</li> <li>・ 11月1日 21世紀文明研究セミナーで講演（村井）</li> <li>・ 11月14日 龍谷大学で国際NGO論講義（村井）</li> <li>・ 11月17日 兵庫県防災リーダー講座講義（村井）</li> <li>・ 12月6日 生活協同組合きらり連合でアフガニスタン報告会（村井）</li> <li>・ 12月7日 防災士研修 大阪（村井）</li> <li>・ 3月9日 防災士研修 大阪（村井）</li> </ul>

3月29日 インディーズバンドによるチャリティコンサート「KOBE DEEP BLUE HEARTS」が開催された。

事業名	機関誌及びインターネットによる情報発信
実施日時	機関誌は隔月発行 インターネットは随時
実施場所	CODE 事務所
受益対象者の範囲及び予定人数	機関誌は全国各地 700 人/団体 インターネットは不特定多数
実施内容	<p>機関誌「CODE レター」は 2 回発行した。またアフガニスタンのぶどう畑再生プロジェクトを伝えるぶどう新聞も 1 回発行した。毎回、力を入れて紹介してくれている東京の団体があるが、5 年経った今も掲載して下さっている。</p> <p>またインターネットで HP は例年通りの発信をしているが、リンク先の影響もあり意外と見て下さっている方は多い。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 機関誌発行 9 月、1 月</li> <li>・ ぶどう新聞発行 10 月</li> </ul>

事業名	冊子及び書籍等の発行
実施日時	随時
実施場所	CODE 事務所
受益対象者の範囲及び予定人数	不特定多数
実施内容	<p>前年度から企画していた CODE ブックレット 2 種類の発行は、財政的に厳しいため今年度も残念した。『KOBE 発災害救援』は、日本生協連連合会国際委員会が購入して下さったので少し動いた。</p> <p>ちなみに同 2 種類とは</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「国際的な人道活動と CODE」CODE 設立 2 周年記念での芹田代表理事による講演録</li> <li>・「予防防災」2005 年度寺子屋防災での室崎副代表理事における講演録（販売実績）</li> </ul> <p>* 『KOBE 発災害救援』 15 冊販売</p>

事業名	支援グッズ販売
実施日時	随時
実施場所	随時
受益対象者の範囲及び予定人数	
実施内容	<p>これまで同様、まけないぞうとホワイトバンド、CODE T シャツだが、3 月 29 日にインディーズバンドが CODE 支援と銘打って開催したチャリティ・ライブコンサート「KOBR DEEP BLUE HEARTS」で販売してくれた。</p> <p>（販売実績）</p> <p>ホワイトバンド 23 個、T シャツ 1 枚、まけないぞう 3 個</p>

【その他本会の目的達成の為に必要な事業】

事業名	CODE 法人設立 5 周年記念事業
実施日時	2008 年 2 月 17 日
実施場所	兵庫県私学会館
受益対象者の範囲及び予定人数	直接裨益するものは参加者一同 約 80 名
実施内容	<p>CODE が非営利促進特定活動法人を取得して 5 年になることから標記の事業を行った。兵庫県私学会館にて、午前 10 時から午後 6 時までの一日行事として開催。約 80 名の参加を得て、成功裏に終えることができた。</p> <p>【CODE 法人取得 5 周年記念フォーラム】</p> <p>テーマ：いのちと向き合う くらし再建の「いま」を見据えて</p> <p>日 時：2008.2.17 (日) 10:00 ~ 18:00</p> <p>会 場：兵庫県私学会館 206 号室</p> <p>主 催：CODE 海外災害援助市民センター</p> <p>内 容：オープニング「CODE5 年の歩み」</p> <p>セッション 1</p> <p>「CODE で育った若者たちの『いま』から学ぶ」</p> <p>パネリスト：鈴木隆太（中越復興市民会議）          斉藤容子（UNCRD 兵庫事務所）          濱田久紀（スリランカ駐在）</p> <p>コメンテータ：柳瀬啓子（コープこうべ参与）          コーディネータ：村井雅清（CODE 理事）</p> <p>セッション 2「震災から 13 年の歩みと CODE」</p> <p>* CODE 理事の発言を元に語り合い、学び合う</p> <p>黒田裕子/秦正雄/吉富志津代/水野雄二/藤野達也/榛木恵子/          西正興</p> <p>コーディネータ：野崎隆一（CODE 理事）</p> <p>セッション 3「新しい市民社会と CODE の役割」</p> <p>芹田健太郎（CODE 代表理事/愛知学院大学教授）          室崎益輝（CODE 副代表理事/消防研究センター所長）</p> <p>コーディネータ：松本誠（CODE 理事）</p>

事業名	CODE エイド設立のための情報収集および研究
実施日時	随時
実施場所	CODE 事務所
受益対象者の範囲及び予定人数	不特定多数
実施内容	<p>今年度開催した「CODE5 周年記念シンポジウム」の懇親会席上で、CODE の財政難について室崎副代表が大変心配されていた。この記念シンポジウムのために財政部長が作成した CODE のこれまでの活動内容を収録した CD を販売しようと思ったので、これまでとは違った層のファンが出現するかも知れない。それ以外は相変わらず好転する材料は見あたらないが、小さなことからコツコツ努力し続けることも大切。また寄付に関連して兵庫県佐用町上月中学校生徒会が今年度アフガニスタン支援の募金活動を行った。また、これまでには縁のなかったインディーズバンドの皆さまが CODE のためにチャリティ・コンサートを開催して下さい。本プロジェクトは、発足当初以来検討されており、今年度も意見交換など開催したが、CODE を財政的に支えるファンドづくりは難しい。しかしながら阪神・淡路大震災をきっかけに生まれた災害救援 NGO として、期待されているところは大きい。昨今、市民ファンドに関連する動きは多彩になってきた傾向もあるだけに、「CODE エイド」誕生の可能性も不可能ではない。もう少し機が熟するのを待って再議論をすることにする。</p>

事業名	CODE スタッフへの奨学金制度の継続について
実施日時	随時
実施場所	
受益対象者の範囲及び予定人数	直接裨益するものは若干名
実施内容	<p>第1号奨学生が、今年度から返金を開始している。事務局の不手際で本制度成立時にマスコミに掲載して貰えなかったので、時期をみてマスコミ発表し取り上げて頂くことを検討する。</p>